



学校における新型コロナの影響と コロナ禍の生活支援について

篠木 正明 議員



質問 長期の休校により、児童生徒にどのような影響が出ていますか。

答 学習の遅れと学力格差の拡大や、児童生徒が不安とストレスにさらされたことによる心理面への影響が出ています。

質問 休校による児童生徒への影響に対して、どのよ

うに対応してきたのですか。

答 学習面においては、一人一人に丁寧な教えることや学習が遅れた児童生徒への個別的な支援を学校に指示してきました。心理面の対応では、学習活動の時間に心のケアに努めています。また、必要に応じて専門家などと連携して、より

丁寧な支援に努めています。

質問 3密を避ける観点から、少人数学級についてどのように考えていますか。

答 3密を避ける上で、少人数学級は大変有効だと考えています。また、クラスを半分以下にした分散登校の時、教員は「児童生徒の話をよく聞くことができ、丁寧な対応ができた」と話していました。児童生徒からも「丁寧に勉強を見てくれた、相談に乗ってくれた」などの声が聞かれました。

質問 コロナ禍の下で、生活保護などの件数はどのようになっていますか。

答 生活保護は大幅に増加していませんが、住居確保給付金と生活福祉資金貸付は急増しています。

質問 厚労省のチラシに「生活保護の申請は国民の権利です」と記載されています。市も「困った時は、ためらわずに生活保護を申請してください」ということを市民に発信すべきと思いますが、いかがですか。

答 生活保護などの支援策については、分かりやすいチラシを作って窓口に置きたいと考えています。

質問 就学援助は昨年に比べ、54人増ですが、対象になる家庭はもつとあると思います。そういう人たちに申請してもらうにはどうしたらよいと考えていますか。

答 周知の方法ですが、6月に保護者に一斉メールしました。今後も学校と協力しながら進めていきたいと思えます。



コロナ禍における避難対策と 被爆75年「平和と愛の鐘」の活用は

小林 信議員



感染症防止の避難所運営

質問 新型コロナウイルス感染症拡大が続く中での避難所運営は、従来と全く違う対応になるが、避難所に医師、看護師、保健師の配置を考えているのか。

また、避難所の運営ではトイレや着替え、授乳などプライバシー保護において、

女性の視点で取り組むことが必要と言われているが、なぜ女性職員の配置が極端に少ないのか。

次に、避難場所の指定がない地域があり、特に三野谷地区は深刻である。車で移動となった場合は渋滞も起こし、避難先の駐車場も混雑する。バス会社と提携

して大型バスで避難することも必要であるが、考えているのか。

答 医師の数が少ないので、避難所は保健師が2人1組の10班集体制で、巡回する方式を考えています。女性の視点が足りない点は、ご指摘のとおりです。で、今後、女性の増員も考

えて、現地配備研修等で実施していきます。バス等を利用した避難や実施方法については、市内

バス業者と平成16年に防災協定を締結済ですので、今後、検討・研究します。

質問 戦後75年「平和と愛の鐘」

質問 広島・長崎の被爆から75年の節目の年だが、昭和63年の非核平和都市宣言の採択を機に、愛と平和の大切さを理解できる心を育てようと、市内の小・中・養護学校に「平和と愛の鐘」が設置されたが、活用については学校だけでなく、社会教育の中でも戦争の悲惨さを将来に受け継いでいく

取組が必要であるが、どのように考えているのか。

答 一学期の終業式の校長の講話で戦争について触れ、「平和と愛の鐘」の設置の意義を伝え、子どもたちが鐘を鳴らして平和の尊さに思いをさせた学校もあったと聞いています。

平和で民主的な市民性を養うため、公民館単位や地区と連携するなど地域と一体となり、鐘の活用を検討したいと考えています。